

いきいき通信

大船渡市男女共同参画情報紙

2010年3月

第24号

岩手大学准教授の海妻径子さんが「父ちゃんの家進出と母ちゃん
の社会参画」と題して講演「岩手の男性はあと20分の家事時間で
全国1位、岩手ブランドのひとつに！」と提唱



平成21年度大船渡市女性まつり

主催 大船渡市各種女性団体連絡協議会



3月14日に開催された大船渡市各種女性団体連絡協議会による大船渡市女性まつり

— もくじ —

特集 家族がひとつ 笑顔で介護 P2~P3

家族が協力しあって介護を続けている2組のご夫妻に聞きました

笹野文雄さん・シヅさんご夫妻(末崎町) 熊谷和夫さん・道子さんご夫妻(大船渡町)

- 男女共同参画サポーター養成講座修了 P 4
- うみねこの会がシンポジウムを開催 P 5
- いわて女性のつどい開催 P 5
- ぽかぽか縁側日記 P 6

男女共同参画社会とは・・・

男女が互いにその人権を尊重しつつ責任を分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる社会です。

少子高齢化、国際化の進展など、社会経済情勢の急速な変化に対応し、調和のとれた活力のある地域社会を築いていくためには、男女共同参画社会を実現していくことが重要となっています。

編集・発行／岩手県大船渡市企画政策部男女共同参画室／〒022-8501 大船渡市盛町字宇津野沢15
TEL 27-3111 内線 216 FAX 26-4477

特集

家族がひとつ笑顔で介護

平成22年1月末現在、大船渡市内の要介護（要支援含む）認定者は2,003人となっており、65歳以上の人口比でみると約3割に達しています。これは、1世帯に1人の介護者がいると仮定した場合、市内全世帯の約14%にあたる数字となります。

誰もが避けてはとおれない「介護」について、地域の人々の理解と支えのなかで、家族が協力しあって介護を続けている2組のご夫妻にインタビューしました。



ささの 文雄さん(79歳)

シズさん(72歳)

末崎町在住

■文雄さんが認知症を
発症、介護は妻シズ

さんと娘の淳子さん、
孫の樹里さんが行っ
ています。

—文雄さんが病気になっ
てからどれくらいになります
か。

○妻 6年になります。以
前は元気に漁に出て、主に
カキやワカメの浜仕事をや
っていたのに、どうしてこ
んな病気（認知症）になっ

たのか、始めは信じられま
せんでした。夫は、海に落
ちた人を助けて、水難救助
で表彰されたこともありま
す。働くのが好きで、とて
も元気な人だったのです。

—現在の病状はいかがで
すか。

○妻 発症した頃は、同じ
ことを何度も話したり、自
分の思うようにならないと
怒りだしたりしました。さ
らには、他の人の物か自分
の物か見分けがつかなくな
ってきたので、近所の方々
に夫の症状について全てお
話して、ご理解とご協力
をお願いしました。現在は、
身体的な症状も進み、ほぼ
寝たきりです。

—現在の日常生活のようす
はいかがですか。

○妻 孫（樹里さん 末崎
中学校3年）が、おじい
ちゃん子で、よく世話をし
てくれます。以前学校で、「家
族」という題の作文におじ
いちゃんのことを書き、賞
をいただいたときは、孫よ
りも文雄本人が大喜びで、

何よりの良薬でした。毎日
床に伏せていても、孫が
学校から帰ってくるのを待
ち焦がれているようです。

—文雄さんの介護はどの
うにしているのですか。

○妻 幸い、娘（淳子さん
社会福祉法人典人会地域密
着ケアホーム「平」勤務）
が介護士なので、いろい
ろとアドバイスを受けながら、
また近所の方々や、週2回
のデイサービスのお世話に
なりながら介護を続けてい
ます。介護疲れの気分転換
が大切なのですが、私は歌
が好きなので、元気の出る
替え歌を作ったり、カルタ
などを手作りしたりして、
くよくよしないよう前向き
に暮らしています。



♪我が家の宿♪

「さざんかの宿」替え歌
作詞 笹野シズさん



曇る気持ちを持ち直し
じいさん今日もよろしくね
尽くしても 尽くしても
ああ進む道
二人で居てもそれぞれに
仕事は咲かない 秋の花
今朝も早起き 空見れば
夫婦カラスが 南向き
尽くしても 尽くしても
ああ進む道
飛んで行くよと 指させば
柿が今年も 色づいた
せめて明るく 一日を
お茶を飲みましょ
ねえ じいさん
尽くしても 尽くしても
ああ進む道
二人咲いても 秋の花
春はいつ来る 我が家の春は



くまがい
熊谷

かずお
和夫さん(78歳)

みちこ
道子さん(75歳)

大船渡町在住

■和夫さんが認知症を
発症、介護は妻道子
さんが行っています。

―和夫さんが病気になるって
からどれくらいになります
か。

○妻 2年くらいになります。
日付を確認したり、数
十年前に働いていたときの
ことを繰り返し話したりす
るようになり気がつきまし
た。その後にも物忘れが多
くなりました。

―ご病気のように見えま
せんが、自覚症状はあるの
ですか。

○夫 自分ではわかりませ
ん。妻がそばにいて、いろ
いろと教えてくれるので助
かります。

○妻 この病気(認知症)

は、本人や家族が気がつか
ないうちにおそってきます。
夫は、以前は野球をしたり
民謡や詩吟が好きで、老人
会で歌ったりしていました。
それから書道もたしなみ、
展示会に出品したりもして
いたのです。

―現在はどうな症状で
すか。

○妻 異変に気づくのが早
かったせいで、今のところ
2人で話し合う時間がもて
ます。薬は手放せませんが、
地域のイベントに参加する
など、地域の方々とふれ
あいを大切にしています。
また、平成20年に夫と2人
で、大船渡港に寄港した飛
鳥に乗船して、2泊3日の
北海道旅行をしたことが、
とてもいい思い出になって
います。

○夫 書道が好きで、かな
り書いていたのですが、今

は氣力がわいてこなくて、
自分自身がじれったいです。

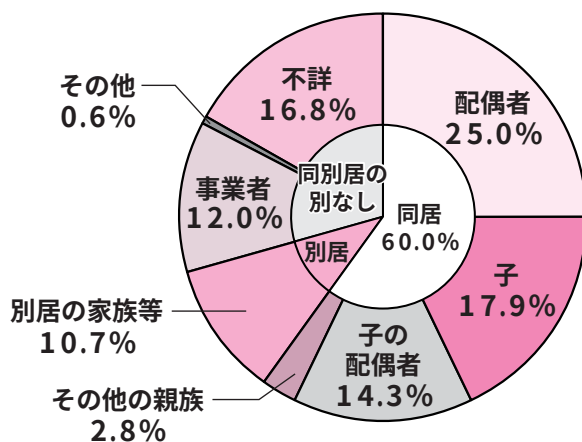
―近所の方々の関り方は
いかがですか。

○妻 夫を介護している私
自身も、いつ病気になるか
分かりませんので、夫の症
状を周囲の方々に伝えて、
ご理解いただくようにして
います。いざというときに
一番頼りになるのは、やは
りご近所の方々なので、お
つきあいを大切にしたいと
思っています。

―現在の日常生活のようす
はいかがですか。

○妻 夫の体調がいいとき
は、夫とともに、グラウン
ドゴルフのサークルに参加
しています。また、私は、
コーラス、手芸、民謡など
自分の趣味も楽しむように
しています。夫は、週に3
日の割合でデイサービスに
通っていますが、そこで自
分よりも重い症状の方の世
話をするのがうれしいよう
です。夫の症状が進まな
いように気配りしながら、
明るく前向きに、気を長く
もって、夫と2人で病気に
つきあっていこうと思っ
ています。

要介護者等からみた主な介護者の続柄



同居の家族介護者の男女内訳 (単位: %)

男 性	28.1%	女 性	71.9%
-----	-------	-----	-------

※ 厚生労働省 平成19年国民生活基礎調査より作成

国の平成21年版男女共同参画白書によると、介護を必要とする高齢者は、女性が男性の約2.6倍となっています。同時に、女性は長寿ゆえに一人暮らしになる可能性が高いため、高齢女性の介護は重要な課題です。

一方、介護の担い手としての女性を取り巻く状況をみると、家族内の主な介護者の7割は女性であり(左図)、老老介護の深刻さが指摘されています。また、ホームヘルパー等の介護労働者も約8割が女性であり、その賃金等の低さも指摘されています。

介護は、受け手と担い手の双方の観点から、女性にとって重要なテーマといえます。

21年度

男女性共同参画サポーター養成講座修了

岩手県と岩手県男女共同参画センター主催による男女共同参画サポーター養成講座が開催されました。大船渡市からは、菊地朱美さん（赤崎町）と米田千賀子さん（大船渡町）が全8日間の講座を受講し、岩手県知事から「男女共同参画サポーター」の認定を受けました。お2人から感想を伺いました。



菊地朱美さん（赤崎町）

で、ともに協力し合って生活していけたら、どんなに幸せなことだろうかと思いましたが、考えさせられました。

また、ある講座では「女性をつぶすのは女性である」という話がありました。「若いくせに」とか「女だてらに」と言われると、地域の集まりや社会参加ができなくなり、自分がやりたい仕事や自分の夢をあきらめなくてはなりません。勇気を持ち、堂々と輝いて、自分らしい自分でありたいと思いました。

まずは自分を知り、相手を理解し、コミュニケーションをとる。プラスのストロークを発信し、心に栄養をつける。「話し愛」「語り愛」の気持ちで、家庭・地域・社会とのつながりをもちながら、ともに笑顔でいきいきと心豊かに暮らす地域づくり、男女共同参画の社会づくりをお手伝いしていきたいと思いました。

男女共同参画について、興味はあったものの、何をどのようにするのか、どんな活動をするのか、今回サポーター養成講座を受講して、理解できたような気がします。

初回から、私の知らない「ジェンダー」やら「アイスブレイキング」の単語で頭の中がパニックに陥りましたが、回を重ねるごとに楽しく、新しい発見の連続でした。

テレビの中だけだと思っていたDV、性暴力、児童虐待、人身売買の実例があげられ、実際に多くの人が苦しんでいることに驚きました。相手（パートナー）を思いやり、自然の流れの中



米田千賀子さん（大船渡町）

「男女共同参画サポーター」とはどのようなものか認識できずに勧められるまま受講させていただきましたが、「頼まれたから仕方なくやる」のではなく、「頼まれたからにはしっかりとやる」という積極的な気持ちで頑張っていると講師の言葉に、受け身だった自分を反省しました。

私たちが知らず知らずのうちに身につけている「女らしさ、男らしさの意識」（ジェンダー）に気づき、自分らしく生きることの大切さを学んだ講座でした。

少し前まで使っていた「保育士さん」ということばも「保育士さん」に変わり、「看護婦さん」も「看護師さん」に変わりました。そして、その職場に今男性が働いていることが何の違和感もなく、むしろそれが必要とされる時代となりました。

大正、昭和、平成と時代が変わるにつれて、私たちの男女に関する意識や考え方も変わり、これからはますます変わっていくに違いありません。

今回の一連の講座から、大切なのは人と人との和であり、いろいろな視点、価値観を持った人々が出会い、今何ができるかを考えながら進むことであると感じました。

男女共同参画は難しいことではありません。個人と個人を尊重しながら互いに協力し、暮らしやすい地域社会を築いていくとするものです。

平成22年度

岩手県男女共同参画センター事業のお知らせ

●いわて男女共同参画サポーター養成講座

★とき 平成22年5月27日（木）～11月4日（木）の期間中、全8日間15講座を開催予定。

★会場 アイーナ（盛岡市）

●いわて男女共同参画サポーター上級講座

★とき 平成22年12月以降、5講座を予定。

★会場 アイーナ（盛岡市）

●いわて男女共同参画フェスティバル2010

★とき 平成22年6月26日（土）10:00～16:00

★会場 マリオス及びアイーナ（盛岡市）

★内容 NPO法人ファザリングジャパン代表 安藤哲也さんによる講演を予定。

サポーター養成講座の受講生については、詳細が決まり次第、広報大船渡で募集します！



つみねつの会がシンポジウムを開催

昨年12月12日、アメリカホテルで市民シンポジウムが開催され、約100人が参加しました。

もりおか女性センター長の平賀圭子さんの講演では、「子育てと介護は、ともににかかわる家族が、きちんと言葉で伝えて、お互いに理解しあって行っていくことが大切」と話されました。



ぴんきつず顧問は、子育てサークルを立ち上げる際の行政とのかかわりについて、また、熊谷君子さん（社会福祉法人典人会地域密着ケアホーム「平」所長）は、自身の施設について、「法改正などにより男性の介護士が増え、男女スタッフがともに助け合い、支えあう明るい職場」と話されました。カナダ出身の美野マークさん（住田町教育委員会国際教育委員）は、「家庭での夫の役割、例えば食事の後片付けや子どもの世話などの意識は定着していて、自分も家庭では妻とともに家事や育児をしている」と紹介しました。

続いて、「男女共同から、男女協働へ」とのテーマで意見交換が行われました。この中で、佐々木亮平さん（陸前高田市保健師）は、自身の家庭と仕事について紹介しながら、協働の大切さを語りました。



いわて女性のつどい開催

前日の大雪にも負けず、2月3日、盛岡市民文化ホールに県内各地から48団体約1,200人が参加し、2009年度いわて女性のつどい（県女性団体連絡協議会主催）が開催されました。

日本労働組合総連合会副事務局長山口洋子さんが、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の実現に向けて」と題して講演しました。山口さんは、「国の仕事と生活に関する調査によると、20代の男女については、74%が仕事を最優先に希望し66%が仕事以外の活動など複数の活動を優先したいと希望しているのに対し、現実には、41%が仕事を最優先に行い29%が仕事以外の活動など複数の活動を行っているという『希望』と『現実』の隔りがある。さらに、政策的には、生活時間の確保や長時間労働の抑制、働く側にとって



の多様な選択肢、育児や介護のための時間保障などが必要」と話されました。

また、働く職場の現状と課題について、連合岩手久慈毅さんから5人による意見交換が行われました。男性の育児休暇取得者として、東北電力の古舘獎さんは、「上の子どもがまだ幼く、実家の両親は高齢などさまざまな事情で育児休暇したが、家族のために過ごせた充実した2カ月だった。両立している妻はすごい。さらに課題として、「所得保障と無給期間をなくすことと、職場の理解である」と話されました。



暴力根絶のシンボルマーク

暴力は犯罪です DV等相談窓口

◆市役所本庁1階 保健福祉課

平 日 9:15～16:00

TEL 27-3111 内線183

◆大船渡警察署生活安全課

無 休（24時間） TEL 26-0110

◆大船渡地方振興局保健福祉環境部福祉課

平 日 9:00～16:00 TEL 27-9913 内線213

◆岩手県福祉総合相談センター

平 日 8:30～18:00 TEL 019-629-9610

夜 間 18:00～22:00 TEL 019-652-4152

土日祝 9:00～22:00 //

◆岩手県男女共同参画センター

火・金 9:00～20:00 TEL 019-606-1762

上記以外 9:00～16:00 //

◆内閣府 全国共通DVホットライン

TEL 0120-956-080（フリーダイヤル）

◆内閣府 ‘配偶者からの暴力被害者支援情報’

<http://www.gender.go.jp/e-vaw/>

■職場でのセクハラ・性差別などに関する相談

岩手県労働局雇用均等室

平 日 9:00～17:00 TEL 019-604-3010

ぽかぽか縁側日記

このコーナーは、皆さんのページです。川柳、エッセー、おもしろ話、困った話などなど、どしどしお寄せください。

鶴の一声

サッカーのワールドカップが近づいてきて、世界中の熱狂的ファン、今からやきもきしているようですな。

ところでそこで使われる笛、ホイッスルだが、あれ、日本製だと知っているかな。なに老生もこの前知ったばかりじゃ。この笛で試合を仕切る。この名品を作っているのが野田鶴声社。それを知ってうなづてしまったな。ほれ、鶴の一声というやつ、まさにその品、名は体をあらわすじゃ。鶴の一声で思い出した、老生のおふくろの話。

おふくろは明治生まれの生一本、しゃれつ気なんてかけられない人。そのおふくろがある日ある時合に出かけた。その会合での話、論客が多すぎてけんけんがくがく。いつまでも結論が出ない。講師役の先生も来ているのに遠慮してか助言してくれぬ。背中の孫もぐずり始めイライラがつり、とうとう「先生、ツルの一声」とでっかい声で叫んだ。そしたら会場が一瞬しーんとなったと思ったら次の瞬間、笑いの爆発が起きたんだ。そしてなかなかそれがおさまんながった。あつげにとられたのは当のおふくろ、なんで笑われたのか皆目わからない。結果的には

見事な仕切りになったわけだが、本人にすればそれどころではない。「やるねえ」と言われても頭まっ白。帰りの道々、大声出して入れ歯を飛ばして笑われた親戚のばあちゃんを思い出して、背中がざらざらなった。さあ、お前さまも推理してみなはれ。何故に笑われたのかと。答えは夜ふとんさ入ったとき、ぱつとひらめいたんだとさ。なんとその講師の先生の名前は「ツル」だったんだ。気がついたのはいいがそこは明治生まれ、今度は先生を呼びすてにしまったことと申しわけないと寝つけなかった。

次の日、意を決して先生のところさ謝りにいったんだ。豆腐一丁もって。どんどはれ。

ま、世の中、政治でも、家庭でも、きちんと仕切る人間は必要だが当然間違いもある。その時それが率直に認めることが大事だわな。



編集後記

こわいのは誤りに気づかない、気づいても認めず押し通すことじゃ、心せいや。なに、わしはどうかって、なにわしは仕切られて暮らす方が楽でいい。

斜読老

子どもを育てる環境づくり、行政や企業の協力もさることながら、近年は家庭において男女がともに子育てに携わる姿が当たり前のように見受けられ、喜ばしく感じています。

一方、高齢化が進むなか、介護についても、誰もが避けてはとおれない難題です。

今回は介護する人となる人を取材し、家族と地域と、行政や介護施設など、社会全体の理解と協力及び支援が必要だと考えさせられました。今後いつそう、一人ひとりの「協働」の意識が求められます。(簡)

さんかく川柳

「職退^{しよくの}いて 夫婦^{ふうふ}の趣味^{しゆみ}に 今日^{きょう}も生き^い」
「共稼^{きさ}ぎ 妥協^{たきよう}へ波長^{はちよう} 持ち合^{もあ}わせ」
「負^まけて勝^かつ コツも妻^{つま}から 教^{おし}えられ」

大船渡町 武田みつ

市内川柳协会会员の川柳です。皆さんも男女の役割分担等のユーモラスな川柳をお寄せください。



「なんでも わらわれ たんだろ？」

「なんでも わらわれ たんだろ？」